

トップの資質が問われる時代

魅力ある現場力と質の高め方

猛暑の中、「老後破綻社会」の特集を組んだ中央公論8月号が目飛び込んだ。「コムスン追放では、何も解決しない。介護はすでに死んでいる」のタイトルが付いた論文には、介護の質を上げれば赤字になるという現実、性悪説に基づいた現行の制度設計に対する改善注文が加えられていた。

昨今、政治、経済、社会の全般に渡って「心のネジが弛んでいる!」としか言いようのない不祥事が新聞紙面に踊っている。

経済面では、相も変らぬ隠蔽事件の発覚によるトップの謝罪が相次ぐ。

北海道を代表する洋菓子メーカーの賞味期限改ざん発覚事件は、内部告発が発端となって経営陣がようやく公表に至ったもの。告発は、同じ道内の食品加工会社が引き起こした食肉偽装事件でマスコミが大騒ぎしていた時期だという。

人形のキャラクターで有名な老舗洋菓子メーカーの杜撰な衛生管理が発覚して製造を中止した事件があったのは、年明け早々のこと。遡れば、大手食肉・乳製品会社による類似事件に限らず、原子力発電所の臨界事故、自動車メーカーの構造的なリコール隠し、鉄道会社の時分中心の運行管理による脱線転覆事故、回転ドアやエレベーターによる事故等、枚挙に暇がない。

そこに、追い討ちをかけるようにして起きた航空機の爆発炎上事故。

幸い、90秒足らずで乗客全員を機内から脱出させたことから間一髪で人命を救ったとはいうものの、その原因は、脱落したボルトが燃料タンクを突き破って燃料が漏れたことで、エンジンの熱によって引火したためだという。つまり、留め具が外れたのは整備ミスによるものとのことだが、整備員の心のネジが弛んだ出来事といわざるを得ない。

(社)日本経済団体連合会(注1)は、経済界の不祥事を受けて企業倫理の徹底は経営者の責務であり、会員代表者は、役員と社員全員の意識改革を図るためにも経営トップが自らの言葉で企業倫理の重要性を繰り返し訴え、社内体制を強化し、社内の隅々まで徹底することで、不祥事を許さない企業風土を確立するため「企業倫理徹底のお願い」を昨年秋から訴えている。

主な内容は、1. コンプライアンス体制の整備と見直し、2. コンプライアンスの浸透と徹底、3. 不祥事が起きた場合の対応となっている。

不祥事は単なる事件や事故ではなく、企業犯罪であると一歩踏み込んだ指導を行わねばならないと考える。

とはいえ、大手企業の新卒採用は、この数年好調を続け、就職氷河期といわれた時代から一転した感が否めない。その反動から、介護業界に深刻な雇用不安が襲っている現状についてのマスコミ報道は、過酷な勤務体系の割に給与水準の低い3K職場としてのネガティブキャンペーンに明け暮れるのみ。

厚生労働省は、介護福祉士の資格を持ちながら介護現場で働いていない約20万人の「潜在的介護福祉士」の職場復帰を進めるため、働かない理由、待遇の改善などを探りだし、

深刻化する介護業界の雇用対策につなげてゆくという全国実態調査を初めて来年度に行うという。

トップが、日頃から人材確保が難しい、人手が足りないと考えているようでは介護現場のレベルは上がるまい。

現場力の向上は、二通りしかない。

一つ目は、現在を否定しつつ、発想の転換によって新たな実践に取り組むこと。スタッフが「やってられない!」と、ぼやいた言葉に着眼し「どうしたら、やってられるようになるのか?」と、今の取り組み方に新たな視点を注入してゆくことも大事である。

二つ目は、失敗を検証して、再度挑戦すること。「トライ・アンド・エラー」で終わらせず、「トライ・アンド・アゲイン」が行われているかという視点である。これらが善循環すれば、現場力は確実に向上する。

悪循環が蔓延る現場か否かは、「特に異常なし」と面倒を避けたがる自己保身の声の多寡によって判別が可能だ。

介護業界の雇用対策を考えると、待遇面に囚われるばかりではなく、魅力ある現場力と質の高め方を腐心するのがトップの役割であると考え。

トップに次の二点を示したい。

- 一、人として、「しなければならないことをしない」という基本(鉄則)を怠らないこと。
- 二、人として、「やってはならないことをする」という定石(ルール)を外さないこと。

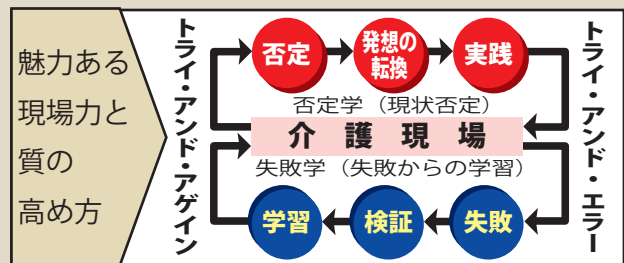
介護職同士、刻苦勉励の業務連鎖が行える環境づくりを形成するためにもトップ自らの思考の再構築が問われている。

介護の質は、介護職の質、ひいては一人ひとりの人間の質にたどり着く。

全国実態調査を通して、人間の資質向上が謳える介護業界の質の向上についても大いにトップは目を向けるべきではないだろうか。

高校受験(第4期事業計画)まで、あとわずか。

(注1)同会理事として、コムスンの親会社グッドウィルの会長が就任したのは3年前の2004年1月。



(有)ハヤカワプランニング 代表

早川浩士氏

1953年生まれ、54歳、中央大学卒業、経営コンサルタント・継業と人材創造塾主宰・著書「介護保険改正に勝つ!経営(年友企画)」他、著書多数・「経営(継業)のツボ」を「月刊介護ビジョン」にて連載執筆中、同誌編集委員
<http://www.hayakawa-planning.com>